

競 技 別 実 施 要 項

【 空 手 道 競 技 】

1 期 日

平成23年7月30日(土)	代表者・審判会議	午前	8時30分
	監督会議	午前	8時40分
	開会式	午前	9時30分
	競技開始	午前	10時00分
平成23年7月31日(日)	競技開始	午前	9時00分
	閉会式	午後	3時00分

2 会 場

群馬県総合スポーツセンター ぐんま武道館大道場

〒371-0047 群馬県前橋市関根町 800 : 027-234-5555

3 種目及び構成

- (1) 同一団員が形と組手の両方に出場することは出来ない。
- (2) 団体戦の選手は個人戦の出場者から選び、競技ごとに変えて良い。
- (3) 団体戦形 各都県 男女 各1チーム
(先鋒4年生・中堅5年生・大将6年生の各学年1名 計3名で1チームとする。)
- (4) 団体戦組手 各都県 男女 各1チーム
(先鋒4年生・中堅5年生・大将6年生の各学年1名 計3名で1チームとする。)
- (5) 個人戦形 各都県 男女 各学年2名
(学年別 個人戦)
- (6) 個人戦組手 各都県 男女 各学年2名
(学年別 個人戦)

4 競技規定及び方法

- (1) 財団法人全日本空手道連盟競技規定及び、関東ブロックスポ - ツ少年団空手道競技会の申し合わせ事項による。
- (2) コートは安全確保のため空手用マット(8m×8m)を使用し、男子2コート、女子2コートの4コートで行なう。

(3) 男女ともにそれぞれ監督 1 名 (計 2 名) をつける。

監督は 2 名とし、それを越える監督を擁する都県は、腕章を交代で用い同時に 2 名を超える指導者がアリ - ナに入ることは出来ない。

(4) 団体戦形

ア) 競技は審判員 5 名によるフラッグ方式で行う。

イ) 各都県男女別チ - ムを A ・ B の 2 ブロックに分け、予選リーグを行い、各ブロック上位 2 チ - ムによる決勝ト - ナメントを行う。(選手は個人戦形出場者の中から選び、試合ごとに変更してもよい。)

ウ) 予選リーグと決勝トーナメント準決勝までは、2 名同時に演武し、決勝戦では 1 名ずつの演武とする。

エ) 演武する形は、予選リーグでは、全空連指定形 (第一 ・ 第二) とし、決勝トーナメントは予選で使用しなかった形とする。

オ) 予選リーグの順位決定はチ - ムの勝数を比較し、同数の場合は勝者数の比較による。更に同率の場合は旗総数による。それでも決しない時は、直接対決の結果による。

決勝トーナメントの勝敗は勝者数による。チ - ムの勝敗が決まっても、3 名全員が競技する。

(5) 団体戦組手

ア) 競技審判員は、主審 1 名 ・ 副審 3 名 ・ 監査 1 名で行う。

イ) 各都県男女別チ - ムを A ・ B の 2 ブロックに分け、予選リーグを行い、各ブロック上位 2 チ - ムによる決勝ト - ナメントを行う。(選手は、組手競技出場者の中から選び、試合ごとに変更してもよい。)

ウ) 予選リーグの順位決定は、チ - ムの勝数 ・ 敗数を比較し決定する。同率の場合は得失点数による。更に決まらない場合は、直接対決の結果による。

決勝トーナメントは、勝敗が同数の場合は得失点数による。更に同数の場合は、代表決定戦を行う。代表決定戦では、本戦で勝敗が決まらない場合は、再試合を行い、必ず勝敗を決める。チームの勝敗が決まっても、3 名全員が競技する。

エ) 競技時間は 1 分 3 0 秒のフルタイムとし、個人の勝敗は 4 ポイント差で決する。棄権及び反則負けの場合は、4 - 0 とする。

オ) 安全具については、J K F 指定のメンホー ・ ボディープロテクター ・ 赤青の拳サポーターを使用し、男子はセイフティ - カップを着用すること。

拳サポーターについては、赤青とし、リバ - シブルは不可とする。

(6) 個人戦形

- ア) 審判員 5 名によるフラッグ方式で行う。
- イ) 各学年を A・B (各 8 名) ブロックに分け、それを更に二分割し、4 名ずつの予選リーグを行う。各ブロック上位 2 名による、決勝トーナメントを行う。
- ウ) 予選リーグから準決勝戦までは 2 名同時に演武し、決勝戦のみ 1 名ずつの演武とする。
- エ) 演武する形は、予選リーグでは全空連指定形 (第一、第二) とし、決勝トーナメントは、予選で使用しなかった形とする。
- オ) 予選リーグでは、同じ形を連続して演武することができる。但し、予選で使用した形は決勝戦では使用できない。

(7) 個人戦組手

- ア) 審判員は、主審 1 名・副審 3 名・監査 1 名で行う。
- イ) 競技時間は 1 分 3 0 秒のフルタイムとし、勝敗は 4 ポイント差で決する。
- ウ) 各学年を A・B (各 8 名) ブロックに分け、それを更に二分割し、4 名ずつの予選リーグを行う。各ブロック上位 2 名による決勝トーナメントを行う。
- エ) 引き分けの場合は、再試合を行う。再試合においても、決しない場合には、フラッグによる判定で決する。
- オ) 安全具については、J K F 指定のメンホー・ボディープロテクター・赤青の拳サポーターを使用し、男子はセイフティ - カップを着用すること。
拳サポーターについては、赤青とし、リバ - シンプルは不可とする。

- (8) 空手道着は、白色清潔なものを着用し、上着の背面中央にあらかじめ配布されたゼッケンをつける。左肩に団員章を必ず付け、その他の一切のマーク類は認めない。

(9) 表 彰

各競技共に、3 位まで表彰する。

5 その他

- (1) 「競技運営事項」及び「審判注意事項」については、代表者・監督会議において説明する。
- (2) 競技中の事故に対しては、主催者は応急処置を行い、その後は参加者の側で処置する。
- (3) 競技において、団員の安全を最優先し、連続して行うことのないよう運用で工夫する。
- (4) 審判員は全日本空手道連盟地区審判員以上の資格を有する者とする。
- (5) 記念品交換については、色紙の交換とする。個人戦の第 1 試合の相手と交換する。